

|       |  |    |                               |
|-------|--|----|-------------------------------|
| 件 名   | 令和4年度 第1回<br>福井市障がい者自立支援協議会（全体会）報告書  |    |                               |
| 日 時   | 令和4年6月24日（金）14：00～15：10  | 会場 | 福井市健康管理センター<br>2Fホール（オンライン併用） |
| 出席者   | 別紙参照（委員名簿）   |    |                               |
| 欠席者   | 紅谷委員（医療）   |    |                               |
| 傍聴者   | 3名   |    |                               |
| 次 第   | 1.開会 挨拶：坂井所長・平谷会長<br>2.委員紹介<br>3.議事<br>（1）令和4年度各専門部会・連絡会の取組について <a href="#">資料1</a><br>（2）令和4年度運営会議における協議について <a href="#">資料2</a><br>（3）相談支援事業の評価について <a href="#">資料3</a><br>4.その他<br>令和4年度地域生活支援拠点事業の取組について <a href="#">資料4</a><br>5.閉会   |    |                               |
| 議事内容等 | （1）令和4年度各専門部会・連絡会の取組について <a href="#">資料1</a><br>【各部会の報告】<br>① 居宅生活支援部会（吉村宜委員）<br>強度行動障害児者支援については、受け入れるために何が必要かといったことに取り組んできた。昨年2回実施した強度行動障害支援者学習・交流会は、参加者の声もあり、今年度も実施予定。ワーキングチームに基幹の参加を得て、実施内容等を検討していきたい。障がい者の余暇活動冊子更新については、コロナ禍で、活動自体が消えていることも想像されるが、新たに活動開始したところもあると思うので、協力をお願いしたい。<br>② こども部会（吉村亮委員）<br>地域課題の協議・前年度からの継続課題の対応を行う。就学時の放課後等デイサービス利用については、放課後等デイサービスの理解に向けたハンドブック作成と、放課後等デイサービス事業所・相談支援事業所に向けた実態調査を行う予定。教育と福祉の連携については、特別支援教育委員会等に上がった教員と事業所の課題を事務局が共有し、部会での報告を受ける中で課題共有を図り、検討する。強度行動障害児支援については、WG内で検討していく。障害児通所支援事業所との連携については、部会で出た課題感を部会でまとめ、既存の通所支援事業所連絡会の中で協議してもらうといった進め方をする予定。<br>③ 就労支援部会（西村委員）<br>就労支援の課題協議とネットワーク作りについては、サービス形態ごとに、各1回（9月以降）ネットワークミーティングを開催する。相談支援事業者連絡会との情報交換会を、8月3日に開催を予定している。また、特別支援学校の現場実習が事業所ごとに集中してしまう点については、日程や年間計画を集約して各事業所に報告し、調整を図ってもらう予定。就労アセスメントについては、アセスメント現場の偏りによる現場の集中や、利用者の適正な利用ができないといった環境課題にどう対応していくかを基幹センターの協力も得て、協議していきたい。障がい者雇用の普及啓発と就労支援事業所の周知については、「福井市障がい者就労支援ガイドブック」の更新を行うとともに、ふくい障害者ワークフェアでのガイドブックの展示等で協力をしていく予定。役員改選に向けた希望調査も併せて、行っていく。<br>④ 地域移行・地域定着部会（山崎委員）<br>昨年度行ったアンケートをもとに、障がい者の地域移行・定着に向けたピアサポートや、地域住民への理解促進に向けたグループワーク（4WG）により、地域移行に向けた意識の向上、社会貢献の機会の増進について検討し、研修・ピアサポート・出張講座といった実践を行う予定。 |    |                               |

⑤ 相談事業者連絡会（森山委員）

昨年度と同様、専門部会に対応した 4 つのランチミーティングでの課題検討を通した相談支援専門員同士の連携強化と地域課題の抽出と相談支援専門員のスキルアップを目指した GSV の場の提供をする。役員改選に向け、しくみ作りもしていきたい。ワークショップについては、相談支援専門員が課題と捉えたテーマの学習の場で、今年度は災害対応に関して 2 回実施し、我々に何ができるかについて学んでいきたい。就労支援部会との意見交換会も予定。

【質疑応答】

- ・平谷会長：参加者からの質問のほか、各専門部会担当者からの追加報告を求める。
- ・吉村宜委員：居宅生活支援部会では強度行動障害児者の受け入れ等で、福祉人材不足が課題といった意見が出ている。来年度に向けて「福祉の仕事っていいよね」が発信できるものを考えていきたい。昨年の課題でもある＜避難支援プラン＞の存在自体を知らない当事者も多くいた。昨年の大雪の時のように、地域で暮らす人たちのストレスをどういう風に吸い上げていけるかも課題と考える。今年はクラブサークル紹介冊子を更新しなければいけないという大きな課題があり、避難支援プランの昨年の課題の積み上げは難しいが、避難支援プランの周知・活用は大きな課題と考えている。
- ・吉村亮委員：こども部会では強度行動障害についての第 1 回目の WG を開催した。これは、自立支援協議会で上がっている地域課題であるが、医療的ケアを必要とする方も含め、行き場のない方々の存在が今の課題感に繋がっていると感じる。出口（行き先）がない・見えない現状を検証していく必要性を感じている。部会でできるところでは、移行支援会議（現状では、高 3 時に開催される保護者・教師・次につながる事業所の会議）をもう少し早い段階、例えば高 1 の時から福祉も交えた会議として開催できないかといったことを検討している。通常学級担当の先生だけでなく、放課後等デイサービス事業所で働く職員にも強度行動障害理解が進んでいない現状がある。特性の問題・支援の在り方についての相談先の存在の周知が必要であり、こういったところに、今年度は力を注ぎたい。
- ・平谷会長：強度行動障害は、診ている立場としては減っている印象であり、また、良い薬も出るようにはなったが、まだ少し時間を要するかもしれない。
- ・鈴木委員：強度行動障害児への関わり等については、昨年度も教育福祉の連携というところで、知るところから始めており、先生方にはもっともっと知ってほしいと思いながら、現状では福祉の方々に支えられている状況。就学前のお子さんの就学相談会は 7 月から開催予定であるが、保護者とは別に、教育と福祉で相談しながら、入口の部分について話をする機会を持ってきた。近く、報告できればと思っている。特別支援教育専門委員会では、昨年度も福祉の方々とグループワーク等をしてきたが、本年度も事例検討等を通して、もう一步踏み込んだ形で相談できる体制として実施できると良いと考えている。
- ・西村委員：現在、一般就労が課題となっている。福井市役所の障がい者雇用率も法定雇用率に達成していないと聞いている。求人情報を事業所に流す取り組みも継続し、活性化を図りたい。
- ・平谷会長：障がい者の就労状況は改善されているのか。診断書を書いていると良くなっている感じがしないということもないが…。
- ・事務局：福井市役所の障がい者雇用率は昨年度までは未達であった。就労支援部会の方々の協力を得た結果もあって、本年度 6 月 1 日現在、2.77%で法定雇用率 2.6%は達成した。今後もさらなる高みを臨みながらの活躍をお願いしたい。
- ・森山委員：相談の立場は、すべての分野に関わりがあるため、必要性を感じてもらえているのか、いろんなWGに駆り出される。いろんな情報を得ることができるが、あっちもこっちも、は難しいと感じている。自分としては、就労に興味が高く、就労アセスメントに取り組むという部会長の話が先ほどあったが、障がい者就業・生活支援センター（なかぼつ）の受託先も変わり、社会保障審議会の中で、就労選択支援といった新しい仕組みの提言がなされたということから、早いうちに関わりと役割分担を地域で検討できるといいと考えている、

(2) 令和4年度運営会議における協議について 資料2

【事務局報告】

運営会議の役割については、以下のとおり。

- ・協議会の運営及び調整
- ・相談ミーティングからの報告に基づく地域課題等についての協議
- ・各専門部会・連絡会への課題提起
- ・専門部会や連絡会の間の調整

〔本年度協議内容〕

① 強度行動障害に関する各専門部会・連絡会における取組

昨年度末、地域課題として＜受け入れ先等の問題について、全体的に取り組むことはできないか＞について、各部会に検討依頼をした。今年度の協議内容とする。

② 協議会への当事者参加に関する事項

今年度までは、居宅部会で、ご家族等に当事者団体として参加を得ているが、全体をみると、当事者の参加はない状況。今年度は、どのような形で当事者の参加を得、声を聴く機会を得ていくかについて、議論していきたい。

〔年間スケジュール〕

資料のとおり。運営会議の開催は、今年度は最低でも4回は実施し、協議を進めていきたい。当事者の方にも、必要に応じて、オブザーバーとして、場合によっては部会にも、スポット的な参加を得ていくことを考えている。

【質疑応答】

- ・山崎委員：当事者部会の話が出たが、自立支援協議会での位置づけについて、少人数で少し話し合っていける場があったらいいなと思う。
- ・事務局：運営会議のメンバーの方に相談しながら、詰めていきたい。

(3) 相談支援事業の評価について 資料3 ※前年度の受託法人

【事務局報告】

- ・目的：委託による業務の自己評価（振り返り）を行うことで、改善意識の向上や業務の適正化に繋げ、市全体の相談支援事業の充実及び質の向上を目指す。
- ・実施方法：提出された自己評価を点検し、必要な改善指導を行う。評価については、事業評価の公平・中立性を確保する観点から、自立支援協議会で報告を行い、評価結果の共有を行う。
- ・取組実績と評価

基幹：人材育成の研修実施や地域移行のアンケート調査といった独自の取り組みを行ってきた。テーマも都度変え、4回実施。オンライン研修で30から50名程度/回の参加者があった。一方、虐待の研修については、当事者に対する研修が実施できておらず、地域生活拠点についても、重度障がい者の受け入れができていなかった。

地区：各事業所がそれぞれの視点で独自の取り組みを行った。自身のスキルアップを図るため、基幹相談や県だけでなく、様々な機関主催の研修に意欲的に取り組まれている。また、自立支援協議会の各専門部会の事務局として、企画運営に関わったり、部会主催の研修協力といった積極的取り組みがなされた。課題としては一次相談窓口としての地区相談から特定相談への引継ぎの方法が事業所により異なり、画一的な対応が出来ていない問題がある。この点については、委託事業者と協議し、改善を図りたい。

発達障がい：独自の取り組みとして、民生児童委員の理解促進を目的とした研修や、スクラム福井との情報交換会を実施。発達障害の人材育成研修をコース別に開催し、その場で出た意見を踏まえ、コースを新設するなど、多様なニーズに込めている。

※相談支援件数の差異については、カウント方法の共有を図り、少なくする予定。

【質疑応答】

- ・吉村亮委員：個別調整会議の件数の把握はされているか。
- ・事務局：毎月の月報に件数は出ている。集計把握はしてはいないが、とることは可能。
- ・吉村亮委員：先ほどの当事者参加のところにも含まれると思うが、個別調整会議をなぜするのかといったことを考えていてもらいたい。実績の中に、個別調整会議の件数等も報告



|              |  |
|--------------|--|
|              | <p>してもらおうと、それだけ声が上がっているんだなと分かりやすい。どこからが個別調整会議とするのかも、まだ、まとまっていないように思う。そのところも含めて、報告してもらいたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局：個別調整会議についても、引継ぎの問題と合わせて委託事業者との協議が必要であると考えている。何らかの形で返していきたい。</li> <li>・西村委員：相談内容の件数に見者・障がい種別といった詳細分類も載せてもらえると、我々が何をしていけばいいのかがわかるので、併せてお願いしたい。</li> <li>・事務局：月報には、対応方法も含めて、整備をしている。こういった場にしっかりとした形で出してはいけるかなと思う。</li> <li>・小柏委員：議事の 1 番目にでてきた避難支援プランについて、10 年以上経っているのに、当事者の方がこれを知らないという問題が出ていたが、これと併せて、当事者やその家族自身の防災力を高める取組もまだまだ手薄であると思う。そういったところに、例えば、防災に詳しい福祉専門職や当事者の力を借りること、福祉関係者が積極的に防災士の資格を取得することなどを通して、防災力を高めていき、これを当事者の方々に伝えていくといった流れを作っていく必要があると思う。また、避難支援プラン作成には介護支援専門員や相談支援専門員の方がこれから関わるという話であるが、恐れているのは、地域の現在関わっている自主防災組織の方や民生委員・福祉委員といった関係者が、＜任せておけばいい＞となってしまいう可能性。専門職には専門職の良さ・地域には地域の良さがあり、ここをうまくバランスを保てるような配慮が必要であると思う。</li> </ul>   |
| <p>そ の 他</p> | <p>4. 令和 4 年度地域生活支援拠点事業の取組について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料 4</span></p> <p>【事務局報告】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度 2 月の全体会議時に、地域生活支援拠点事業の整備類型を面的整備に変える意見をまとめたものを提出し、4 月から面的整備とし、主任相談支援専門員・基幹相談支援センター・行政のコアメンバーで今年度の面的整備の進め方を検討した。</li> <li>・有する機能は①相談 ②緊急時の受入れ・対応 ③体験の機会・場の提供 ④専門的人材の確保・養成 ⑤地域の体制づくりの 5 つ。</li> </ul> <p>＜今年度の目標＞</p> <p>①指定特定相談支援事業所の拠点登録数の増加＜相談＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・先進的に一体的管理運営を行っている地区より講師を迎え、研修会（web）を実施する。</li> <li>・一体的管理運営をしている市内の相談支援事業所の取組内容についての報告・共有を、相談支援事業者連絡会を通じて行う。</li> </ul> <p>②緊急時の定義、対応等の明確化を図る＜緊急時の受入れ・対応＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学識経験者、相談支援事業所、短期入所事業所、主任相談支援専門員、基幹相談支援センター、行政によるWGを開催。緊急時の定義、相談を受けてから保護するまでの流れ、事業所（一時保護先）の選定について協議していく予定。</li> <li>・来年 2 月開催予定の全体会議で、拠点事業の評価を予定している。協力をお願いしたい。</li> </ul> <p>【質疑応答】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・吉村宣委員：ワーキングチームは何人くらいと考えているのか。</li> <li>・事務局：短期入所事業所で 3 事業所、相談支援事業所で 3 事業所の募集をかけ、締め切っている。事業者も決まっている。相談機能の部分と、緊急時受け入れの部分で分けて話し合いたいと考えているので、相談支援事業所については、学識経験者とコアメンバーで協議するという形になると思う。相談支援事業所と短期入所事業所が一堂に会する場面は 1～2 回程度と想定している。</li> <li>・吉村宣委員：緊急時の受け入れがあったら、この WG で決めるということではないと理解していいか。</li> <li>・事務局：緊急時の相談から緊急時の保護までの流れをどうしたら円滑に進めることができるかを協議し、協議で決めた内容を拠点登録した事業所に周知できればと考えている。</li> <li>・吉村宣委員：流れを決めるということでのいいのか。</li> <li>・事務局：おっしゃるとおり。判断そのものは、ケースバイケースなので。</li> <li>・森山委員：面的整備で、今整備されていて登録した事業所は、拠点事業を使えるといった</li> </ul> |

認識でよいのか。

- ・事務局：整備はしており、市のホームページのほうで公表している。緊急の対応や体験の機会で実態があるようなら、当たってもらえばと思う。
- ・山崎委員：対象者は、手帳を持っている人とか福祉サービスを利用している人といったものはあるのか。
- ・事務局：受け入れた事業所に報酬を支払うものなので、基本的には、サービス利用者と思ってもらえばよい。
- ・山崎委員：では、まったくサービスを利用したことのない人は、障がいがあっても利用できないのか。
- ・事務局：その日付で支給決定をして、受け入れを決めていくということになるかと思う。